

抵抗性アカマツ「播磨の緑」接ぎ木苗の活着率向上

【背景】マツノザイセンチュウに強い抵抗性をもつアカマツ品種「播磨の緑」を開発

アカマツ品種「播磨の緑」とは

- 接ぎ木苗にマツノザイセンチュウを接種検定し、高い生存率
- 高いマツノザイセンチュウ抵抗性を実証(緑化センター内に植栽して試験→他品種が枯れる中で20年以上生存)
- 平成19年に全国で初めて抵抗性アカマツの品種登録
- アカマツ林再生のツールとして活用が見込まれる

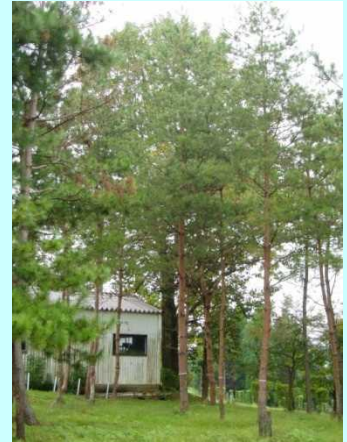
→しかし、**実用的な苗木の生産方法が確立されていない**

【目的】抵抗性アカマツ品種「播磨の緑」接ぎ木苗の生産実用化

- 本品種の抵抗性を完全に引き継ぐことができる栄養繁殖による
- マツの挿し木は困難 → **接ぎ木**による苗の生産

→そのためには、**苗木の活着率向上が必要**

【成果】「播磨の緑」接ぎ木苗の活着率を実用的レベルにまで向上



緑化センター内に植栽された「播磨の緑」

1. 活着率の向上のため

- 穂木の充実**→採穂園の造成、管理
 - 台木の充実**
 - 適期に接ぎ木、管理**
- 活着率50%を達成



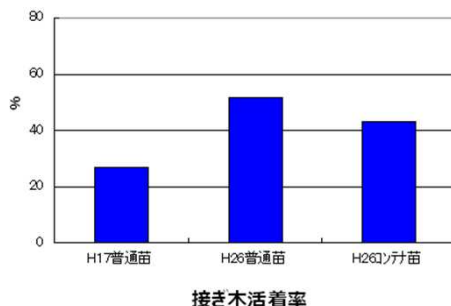
「播磨の緑」
採穂園

2. さらに育苗コストを低減するため

- **キャビティコンテナ苗を台木に使用**
 - **普通苗台木と同様に接ぎ木時に1本ずつポリ袋をかぶせ、その上を寒冷紗で覆う等の細かな作業**
- 普通苗台木とほぼ変わらない活着率と生育



露地植え普通2年生を台木とした「播磨の緑」接ぎ木苗



コンテナ苗を台木とした「播磨の緑」接ぎ木苗

【技術の活用】接ぎ木苗の生産本格化に向けて活用します。